

『芝川』は正信覚醒運動が起こる少し前の昭和 50 年 5 月に神屋正明・高橋公純・廣田頼道の 3 人で同人雑誌として創刊しました。場所は大石寺・大坊であります。大学を卒業し、大坊在勤した折りに、自分達の属している、日蓮正宗・大石寺・宗門・創価学会等々の出家してから今日まで、自分達が肌で感じ感じてきた現実というものが、本当に日蓮大聖人様の本来の姿なのだろうか、言論の自由も無いような、閉塞した、窒息状態のままで良いのだろうか、「金口嫡々」と「戒壇絶対」で日蓮大聖人様の法の全てを示していると言えるのだろうか。という違和感のともなう疑問が期せずして突き上がるように湧いて来て、たまたまこの 3 人で、自由に意見が交換出来る土俵を雑誌の誌面として提供出来るのではないかと考え、展望も費用も無いまま、とりあえず当時の宗門に存在していない、必要な物を作って、出来る所まで続けてみようという事で始めました。大坊に在勤してすぐの 5 月に創刊号を出したという事は、振り返って考えると徒手空拳ながらも、ジグソーパズルが偶然予兆なく噛み合う時だったのかもしれないと思います。そんな状態だった為、創刊号は手書きで、コピーで 150 部作り全国の在勤者を中心に発送した。少しでも多くの人に見て貰い、年功序列を越え道理を根本にした討論のきっかけになればという思いであった。(この創刊から 15 号迄の手書きコピーの『芝川』は、私自身が散逸して手元に無い状態になっている。保存している方がいれば、このバックナンバーの内容に加えたいので目次だけでも書き出して送って頂ければありがたい) これほど稚拙な雑誌であったにもかかわらず、ひょんなことから日達上人が眼にし、大坊から出ているという事は責任問題を起こす事になりかねないので、発行をしてはならないという事になり、何ヶ月か休刊することになりました。一年の大坊在勤が解除となり 3 人それぞれがバラバラになり、私は徳島の敬台寺の在勤となりました。大坊から離れたのだから、日達上人の注意からも解放され、自分が責任を負えば良いと判断して、私だけが発行出来るような状況にあったため、私が細々と共感して頂ける方々のカンパと自分の手当の範囲で今日まで続けて来ました。

32 年間継続してきた内容(目次)を一覧表に示して、それぞれ改めて、一切衆生成仏の法とはどうあるべきものなのかを考えるささやかな道標しにして貰いたいと思います。

■は絶版□は在庫のある号であります。

「読むべき世雄偈の大切さ」 500 円(送料別)

■『芝川』No. 16 昭和 52 年 6 月 9 日発行

○ひょうしの言葉 廣田頼道

○閻浮広布私論(六)

(韓国広布論)(三) 匿名

○蘇生(第二泪羅) 龍 月

○末 法 匿名

○ある会話をもとに ロボット

○両親に願う 白水富

- 疑問と 一在勤者
- 原稿募集
- 教えて下さい 松藤欣道
- 十五号の`詫文に寄す` 龍 月
- 編集後記 廣田頼道

■『芝川』No. 17 昭和 52 年 7 月 25 日発行

- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 蘇生(三)妹尾の思想より(上) 龍 月
- 無羞僧 不 忍
- 今も昔も(二) 魁 頭
- 願い 陽 秋
- 発想 微少比丘
- オモニ、チンジ、チャプショー
高橋公純

○原稿募集と主旨

- 芝川十五号ハンセン氏を読んで亀歩男
- 便り 花野充道
- 編集後記 廣田頼道

■『芝川』No. 18 昭和 52 年 9 月 29 日発行

- ひょうしの言葉 廣田頼道
- S49・5・31 同心会
御法主上人御言葉 日達上人
- 閻浮広布私論(七) 匿 名
韓国広布論(四)
- ある疑問点 新井慈康
- 蘇生(四)
妹尾の思想より(中) 匿 名
- 原稿募集と主旨
- 夏の叫び 一 学 生
- 詩二題 亀 歩 男
- 便り 一 僧
- 編集後記 廣田頼道

■『芝川』No. 19 昭和 52 年 12 月 8 日発行

- ひょうしの言葉にかえて 廣田頼道
- 蘇生(五)妹尾の思想より(下) 龍 月
- らいに関する
亀歩男師の文に愚考す 龍 月
- 夜の海を眺めながら S 生

- 原稿募集と主旨
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No. 20 昭和 53 年 2 月 15 日発行
- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 所感 後悔比丘
- 印度紀行文 羅 素 多
- 蓮華堂だより 松藤欣道
- 出家と在家 新井慈康
- 原稿募集と主旨
- 会計
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No. 21 昭和 53 年 4 月 17 日発行
- ひょうしのことば 廣田頼道
- 閻浮広布私論(八)
韓国広布論(五) 高橋公純
- 蘇生 龍 月
- 夜の海を眺めながら S 生
- 春雷 福田寿道
- 原稿募集と主旨
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No. 22 昭和 53 年 6 月 15 日発行
- ひょうしの言葉にかえて 廣田頼道
- 阿仏房今昔物語(四) 龍 月
- コロンブスの卵 井上芙美男
- 思う事 中越習道
- 原稿募集と主旨
- 会計
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No. 23 昭和 53 年 8 月発行
- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 中国仏教史に於ける
暗黒時代についての一考察 神屋正明
- 答えて下さい S・Y
- 泥縄 井上芙美男
- 原稿募集と主旨

- 詩?らしきもの三編 S 生
- 編集後記 廣田頼道
- 『芝川』No. 24 昭和 53 年 10 月 25 日発行
- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 中国仏教史に於ける
暗黒時代についての一考察(続)
神屋正明
- 「それから……」
いのうえふみを
- 秋雷 福田寿道
- 原稿募集と主旨
- ちょっと気取って書こう 関 慈謙
- 編集後記 廣田頼道
- 『芝川』No. 25 昭和 53 年 12 月 20 日発行
- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 信正寺韓国体験記 公 純
- S・Y 師に一言 松藤欣道
- 催疑信と醜悶 NS 生
- 威信の失墜 TR 生
- 原稿募集と主旨
- 編集後記 廣田頼道
- 『芝川』No. 26 昭和 54 年 3 月 13 日発行
- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 信正寺韓国体験記(二) 公 純
- 原稿募集と主旨
- 学会問題に於ける今後の課題
下道貫法
- 編集後記 廣田頼道
- 『芝川』No. 27 昭和 54 年 5 月 10 日発行
- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 信正寺韓国体験記(完)公純
- 誤らず誤り S・Y 生
- 辞任勧告 大山謙道
- 原稿募集と主旨
- 『このままでは息がたります』
新里望道
- 編集後記 廣田頼道

■『芝川』No. 28 昭和 54 年 6 月 28 日発行

- ひょうしの言葉にかえて 廣田頼道
- 阿練若 高橋公純
- 大聖人と貞観政要(じょうがんせいよう)

山口範道

○原稿募集と主旨

- 仏飯を食むに足る僧侶なりや石田栄尊
- 求不得苦 新里望道
- 編集後記 廣田頼道

■『芝川』No. 29 昭和 54 年 9 月 5 日発行

○ひょうしの言葉

- 一 猯下が亡くなられた一 廣田頼道
- 宗祖七百遠忌を眼前にして 下道貫法
- 狡兎死して走狗烹らる 山口範道
- 本尊貸与と本尊下附さらに返却

福田寿道

○原稿募集と主旨

- 今、思う事 黒木英光
- 編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 30 号昭和 54 年 10 月 25 日発行

- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 三十号に寄せて 檀原慈道
- 宗祖七百御遠忌を眼前にして(P II)

下道貫法

○大聖人と貞観政要(続) 山口範道

○原稿募集と主旨

- 詩二題 白蓮子
- 第二回若手教師意見発表会を通して

廣田頼道

○収支決算報告

- 編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 31 昭和 54 年 12 月 10 日発行

- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 現時における大聖人 山口範道
- 私が檀徒にならない訳

日蓮大聖人様の一信徒

- 原稿募集と主旨
- 学会謗法に対しての疑問点 福田泉道
- 編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 32 昭和 55 年 2 月 15 日発行

- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 朴大統領の死 高橋公純
- 原稿募集と主旨
- あとがき 廣田頼道

□『芝川』No. 33 昭和 55 年 4 月 3 日発行

- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 御本尊の取り扱いについて 山口範道
- 宗祖日蓮大聖人第七百御遠忌を
 明年に迎えるに当って 下道貫法
- 問 う N・S 生
- 原稿募集と主旨・追伸
- 編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 34 昭和 55 年 6 月 5 日発行

- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 慈悲 高橋恩道
- 思う事 福田泉道
- 原稿募集と主旨・追伸
- 王仏冥合について 廣田頼道
- 編集後記 廣田頼道

■『芝川』No. 35 昭和 55 年 9 月 10 日発行

- ひょうしの言葉 廣田頼道
- これでいきましょうや! 北川資道
- 虱と金毘羅船 求法童子
- 無色透明ミネラルウォーター 成田詳道
- 原稿募集と主旨
- 決算報告
- 編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 36 昭和 55 年 11 月 30 日発行

- ひょうしの言葉 廣田頼道
- 金口の嫡々 廣田頼道
- ワンポイント回答 下道貫法

- 原稿募集と主旨・追伸
○どちらが偏見か糺してみよう 廣田頼道
○編集後記 廣田頼道
- 『芝川』No. 37 昭和 56 年 1 月 25 日発行
○ひょうしの言葉 廣田頼道
○我が子を産み捨てに
する様な真似はやめろ！ 温 道
○原稿募集と主旨・追伸
○基本的誤り 匿 名
○編集後記 廣田頼道
- 『芝川』No. 38 昭和 56 年 4 月 15 日発行
○ひょうしの言葉 廣田頼道
○A地点からB地点へ 成田詳道
○夢と現実 蟹江勉道
○原稿募集と主旨・追伸
○フェニックス 公 純
○編集後記 廣田頼道
- 『芝川』No. 39 昭和 56 年 6 月 20 日発行
○ひょうしの言葉 廣田頼道
○一華を見て春を知る 松田銘道
○原稿募集と主旨・追伸
○大石寺にねむるもの 廣田頼道
○決算報告
○編集後記 廣田頼道
- 『芝川』No. 40 昭和 56 年 8 月 1 日発行
○ひょうしの言葉 廣田頼道
○今日此の頃 大黒喜道
○原稿募集と主旨・追伸
○編集後記 廣田頼道
- 『芝川』No. 41 昭和 56 年 10 月 5 日発行
○ひょうしの言葉に変えて
「酷似した教団」 廣田頼道
○宗内の在勤教師の方々へ 山本是道
○七百遠忌節に思う 興風談所民
○原稿募集と主旨・追伸

- 編集後記 廣田頼道
- 『芝川』No.0 昭和 57 年 1 月 1 日発行
(編集の内容と方向性を変える意味でに
0号に戻しました)
- 再刊の言葉 廣田頼道
- 所化のすすめ 池田令道
- 日興上人御消息から 山上弘道
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No.1 昭和 57 年 2 月 28 日発行
- 「六卷抄と文段」(1) 松田銘道
- 日興上人御消息から(2) 山上弘道
- 「まめ」 山本是道
- 熱原法難から
とらなければならないもの 廣田頼道
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No.2 昭和 57 年 5 月 22 日発行
- 「六卷抄と文段」(2) 松田銘道
- 勸醒(法友へ) 山本是道
- 文選 廣田頼道
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No.3 昭和 57 年 9 月 5 日発行
- 六卷抄と文段(3) 松田銘道
- 彼岸 山本是道
- 訛りについて 廣田頼道
- 愁歎 山本是道
- 文芸品評 成田詳道
- 牛になること 池田令道
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No.4 昭和 57 年 12 月 20 日発行
- お願い 廣田頼道
- 六卷抄一考察 福田泉道
- 相続一考 山本是道
- 日蓮正宗の血脈 廣田頼道
- 日々是精進 蟹江勉道
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No.5 昭和 61 年 11 月 11 日発行
- 表紙の言葉 廣田頼道
- 状況変われど
- 原点は変わらずか? 廣田頼道
- 「山上師の主張を読んで」
読んで 廣田頼道
- 教義の研鑽とは? 廣田頼道
- 正信会報編集室からの返信
正信会報編集室

- 『芝川』No.6 昭和 63 年 5 月 20 日発行
- ひょうしのことば 廣田頼道
- 無功無利なる信仰 大黒喜道
- 勤行について考える(1) 廣田頼道
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No.7 昭和 63 年 11 月 31 日発行
- ひょうしのことば 廣田頼道
- 現時に於ける正信覚醒運動と
今後の進め方 新里望道
- 神祇信仰の意味するもの(1) 菅原関道
- 勤行について考える(2) 廣田頼道
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No.8、1989.6.25 発行
- ひょうしのことば 廣田頼道
- 正信会にたいする感想文 新里望道
- 勤行について考える(3) 廣田頼道
- 「欲聞具足道」と
末法下種の教主 菅原関道
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No.9、1991.3.1 発行
- ひょうしのことば 廣田頼道
- 絵柄綾織紋衣の否定(1) 廣田頼道
- 基本姿勢の確認 大黒喜道
- 勤行について考える(4) 廣田頼道
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No.10、1993.4.15 発行

○『奉血脈相承代六十二世日恭上人之書』

解説

○同書著者プロフィールと

読後感 廣田頼道

○法前仏後の人法一箇 廣田頼道

○創作童話

『ありがたやじじい』 山中田平

○編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 11,1994.7.1 発行

○「正信会への提言」(1) 鷹尾貞彦

○正信会議長

選出選挙制の導入 廣田頼道

○Aさんからの手紙へ 廣田頼道

○年功序列からの脱皮 廣田頼道

○時の貫首たりと雖も 廣田頼道

○丑寅勤行について考える 廣田頼道

○創作童話

『イワシのやまちゃん』 山中田平

○御詫と訂正 廣田頼道

○編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 12,1995.6.7 発行

○私の僧侶観 五箇秀樹

○正信会への提言(2)

「法燈相統について考える」 鷹尾貞彦

○背中を押される 大黒喜道

○「一考」 中越習道

○富士門流の血脈観

(阿部発言と貫首無謬・絶対論の過ち)
廣田頼道

○阪神大震災を考える 鷹尾貞彦

○絵柄綾織紋衣の否定(続) 廣田頼道

○創作童話『罰あたりのはなし』
山中田平

○編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 13,1996.12.5 発行

○正信会への提言(3)

「意識変革の必要性について」

鷹尾貞彦

- 本尊とは何か 廣田頼道
- なぜ帰山するべきなのか 古屋得純
- なぜ帰山するべきなのか
に対する返信 廣田頼道
- 山中にて共に餓死にし候わん 廣田頼道
- 創作童話『仏様になる旅』 山中田平
- 編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 14, 1997.12.27 発行

- 正信会への提言(4)
「本山復帰問題と正信覚醒運動について」
鷹尾貞彦

- 日蓮大聖人の教義を否定する
『御肉牙』なる物を否定する 廣田頼道
- 日日上人再誕・再來說のまちがい

廣田頼道

- 『焼米』知っていますか 廣田頼道
- 日達上人の位牌 廣田頼道
- 創作童話「雀の舌を切った理由」

山中田平

- 編集後記 廣田頼道

『芝川』No. 15, 1998.12.20 発行

- 正信会への提言(5) 鷹尾貞彦
- 折伏とは何か 廣田頼道
- 娘 亜紀について 鷹尾貞彦
- 再生塔婆は悪い事だ 廣田頼道
- 創作童話「まさると御先祖原人」

山中田平

- 編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 16, 1999.8.15 発行

- 正信会への提言(6)
「正信覚醒運動と法門問題」 鷹尾貞彦
- 日蓮正宗の信仰を考える。

失われた法門 太田 勲
布江 允

- 日蓮正宗の高座説法(新説免許)に
おける『願文』について根本的に

- 改めなくてはならない事 廣田頼道
- 正信正法の行方 高橋公純
- 日興上人の公私についての一考察 福田泉道
- 十時間以上歩くということ 廣田頼道
- RESET 廣田頼道
- やっちゃん 山中田平
- 編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 17,2001.1.15 発行

- 正信会への提言(7) 鷹尾貞彦
- 覚醒運動再考 片山幸彦
- 建長五年四月二十八日は
宗旨建立にあらず 廣田頼道
- 「法華經」信仰の歴史における
問題点について 新世紀に向けて
大黒喜道
- 正信会に訴える 辻谷美智子
- 形木本尊考
失われている日興門流の伝燈
木下篤志

- 日蓮正宗の信仰を考える。
はたして今のままで清流は蘇るか？
太田 勲
布江 允
- 戒壇本尊とは何なのか 廣田頼道
- 娘・亜樹について
「泣かないという約束」 鷹尾貞彦
- おじさんはこう思う 山中田平
- ラムちゃん 杉山 彰
- 編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 18,2002.5.10 発行

- 正信会への提言(8) 鷹尾貞彦
- 僧侶の説法 廣田頼道
- 日蓮正宗の信仰を考える(3)
真偽論は体系化によって解決か
太田 勲
布江 允
- 講についての一考察 田中正明

- 米国における信仰の一面 廣田頼道
- 研究論文
金口相承について近代宗史からの検証 鷹尾貞彦
- 坊主に裏切られた坊主
坊主に裏切られた信者 廣田頼道
- 手紙 (2001年1月31日拝受)
花野充道
- 建長五年四月二十八日は
宗旨建立にあらず(2) 廣田頼道
- 娘・亜樹について
「大学受験」 鷹尾貞彦
- 編集後記 廣田頼道

■『芝川』No. 19,2003.8.1 発行

- 正信会への提言(9) 鷹尾貞彦
- 声帯ポリープを手術して 廣田頼道
- 創価学会の狙いとは! 鷹尾貞彦
- 吉川幸道という人の
暗闇の正体 廣田頼道
- 日蓮正宗の信仰を考える(4) 太田 勲
- 正信会は何故宗教法人を
設立しないのか 廣田頼道
- 講についての一考察 田中正明
- 大石寺という名前が
意味するもの 廣田頼道
- 二箇相承書の疑問点を
論証する 鷹尾貞彦
- 大石寺の主張する金口嫡々
血脈相承の現実の虚妄 廣田頼道
- RESET 廣田頼道
- 編集後記 廣田頼道

□『芝川』No. 20,2005.2.16 発行

- 今でも大石寺大坊の起床は
軍歌ですか? 廣田頼道
- 「化儀の廣宣流布觀なる邪義を破す」
鷹尾貞彦
- 正信会は何故宗教法人を
設立しないのか② 廣田頼道

- 「近代の本因・本果観を破す」
鷹尾貞彦
- 日達上人迄は正しく血脈は流れてい
たが日顕上人(本名阿部信雄)で
血脈は断絶した。 廣田頼道
- 編集後記 廣田頼道

- 『芝川』No. 21,2006.8.1 発行
- 御書研究への一考察 田中正明
- 靖国神社に参拝する意味 廣田頼道
- 近代法義観の誤りを糾す 鷹尾貞彦
- 日尊上人の魅力 田中正明
- 折伏(廣宣流布)とは何なのか 廣田頼道
- 熱原三烈士顕彰の碑を刮目すれば
廣田頼道

- RESET 廣田頼道
- 編集後記 廣田頼道